

事例 : No. 8

主伐—再生林の推進に向けた取組

1. 林業事業体等名 <sup>あぶ はぎ</sup>阿武萩森林組合（山口県萩市）

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 5,600m<sup>3</sup>（うち間伐の占める割合 64%）
- ②生産する主な樹種 スギ・ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 10名（主伐班1セット3名、搬出間伐班7名）

3. 取組の特長

充実した森林資源と木材需要の拡大を背景に、経営の安定・強化を図るため、主伐—再生林による循環型林業への転換を進めている。

①効率的な木材生産技術の習得と木材生産力の強化

平成29年度に、全国に先駆けて、主伐と再生林の一貫作業の取組を行っている鹿児島県の森林組合を講師に招き、実践研修を実施。

②高性能林業機械の導入

当組合では高性能林業機械を保有していなかったが、この実践研修を契機に、平成30年度にプロセッサとグラップルを各1台導入し、主伐と機械地拵えに取り組んでいる。

②木材生産力の強化に向けた生産システムの改善

現場条件に応じた作業システムを試行錯誤しながら取り組んでおり、特に、プロセッサの稼働率が最大化するよう、ザウルス（フォーク収納型グラップルバケット）による木寄せ作業（全木集材）を重視している。

また、実施にあたっては、工程調査を行うなど生産性とコストを把握し、改善点の洗い出しを行う等、生産性の向上に努めている。

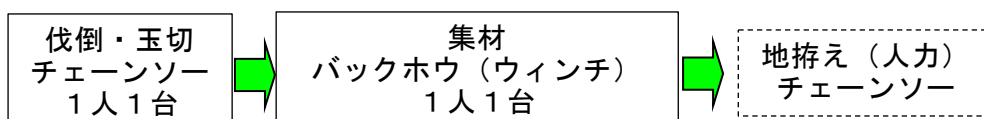
4. 具体的な内容

①施業方法：主伐

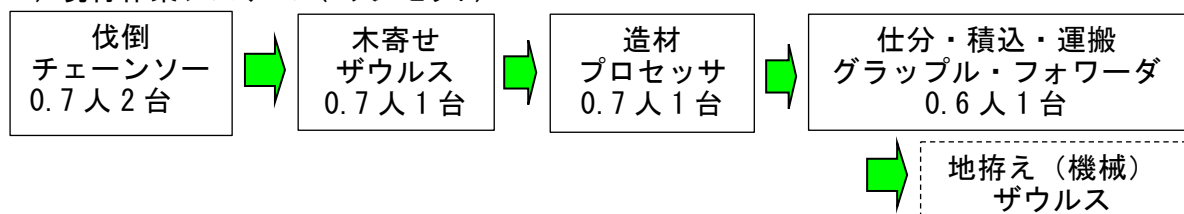
②使用機械：プロセッサ・グラップル・ザウルス（ベースマシン0.28）1台、  
フォワーダ（3ト積）1台

③作業システム：

1) 旧作業システム（2人/セット）



2) 現行作業システム（3人/セット）



④森林作業道の作設方法：

作業道はザウルスで作設し、作業効率を考えた路網配置としている

⑤労働生産性及び素材生産コスト：

	旧作業システム		新作業システム	
	労働生産性 (m <sup>3</sup> /人・日)	素材生産コスト (円/m <sup>3</sup> )	労働生産性 (m <sup>3</sup> /人・日)	素材生産コスト (円/m <sup>3</sup> )
主伐	4.5	3,159	11.40	2,414
地拵え	ha 人役 (人/ha)	コスト (円/ha)	ha 人役 (人/ha)	コスト (円/ha)
	23.5	352,000	5.1	103,000

労働生産性は、主伐で 250% 向上し、地拵えは 78% の縮減となった。

5. 今後の取組等

森林組合が果たすべき役割は今後一層重要になると考えており、以下の取組を強力に推進し、“森林所有者への利益還元”と“森林組合の経営基盤の強化・安定”が達成できるよう支援を継続していく。

○主伐—再造林を主体とした団地の設定

現場技能者や林業機械を集約し作業効率を向上させるとともに、計画的な路網整備を行うため、団地化を図り、施業地の集約化を進める。

○人材の育成・確保

オペレーターの育成と機械導入を計画的に進めていくとともに、新規就業者の確保に向けた労働環境の整備・雇用条件の改善を県・市町等と連携し進める。

○下刈の省力化

再造林の増加に伴う下刈の負担軽減が不可欠であることから、隔年下刈等に取り組む。

○現場の見える化とシステムの改善

日報管理やコスト分析の徹底による生産現場の見える化と、PDCA サイクルの実践等により、生産性の一層の向上を図る。



【木寄せ～積込の状況】



【機械地拵え】



【機械地拵え後】

【問い合わせ先】

所属：山口県萩農林水産事務所森林部

役職・氏名：主査 吉田素子

連絡先：0838-22-3366

yoshida.motoko@pref.yamaguchi.lg.jp